

田中（フリー97kg級）が優勝！ JOC杯全日本ジュニアレスリング

JOC杯全日本ジュニアレスリング選手権が4月27、28日に横浜文化体育館で行なわれ、フリースタイル97kg級で田中章仁（経済2・三井高）が見事優勝を果たした。

田中は予選から順当に勝ち上がり、決勝戦もわずか1分のフォール勝ち。圧倒的な実力差で勝利を勝ち取った。

佐藤満コーチは「去年はこの大会で勝つことが出来なかったが、今回の優勝で他選手との実力差がはっきりと表れた。まだまだ成長段階なので、動きにスピードをつければさらにパワーが増している。精神面も強くなっていけば目標も高まるし、まだまだ伸びる可能性を秘めていますよ」と今後への期待を語っていた。

〔5月15日/ニュース専修15面〕

グリーンマシーン 城西大を圧倒 アメフト 春季交流戦「川崎シリーズ」



激しいタックルでの潰しあい(対城西大戦)

春季交流戦の「川崎シリーズ」が4月21日から始まった。

初戦は昨シーズン2部で優勝している城西大と雨の中、川崎球場で対戦、13-0で勝利を飾った。

第1Q開始早々、小島淳寛(商4・埼玉栄高)が先制TDを決めたが、その後調子が上がらず、後半残り3分で、なんとか追加点をもぎ

取り試合終了。だが、「まだ形になっていない」と渋い表情の平野恭雄監督の言葉通り、今後の課題は山積みようだ。

続く5月5日、等々力硬式野球場で行われた関東学院大学戦では、互いに逆転を繰り返す激しい攻防が続いたが、最後は20-19と辛くも勝利を収めた。

19日には宿敵法大との対戦が待っている。今まで以上に気を引き締めて挑んでほしい。(北野いづみ・文3)

〔5月15日/ニュース専修15面〕

6勝1敗勝ち点3 日大、中大と優勝争い 準硬式野球



光る中山主将のバッティング

東都大学準硬式野球春季リーグ戦(1部)が3月25日から開幕した。専大は開幕戦で日大に敗れた(2回戦は雨天により5月21日に持ち越し)が、第2週の東海大戦以降、国士大、亜大に6連勝し、6勝1敗勝ち点3(5月12日現在)で優勝争いに加わっている。

対亜大1戦目では、打線がつながり18-1で大勝。翌日の同2戦目では、7回まで2-4でリードを許すが8回裏に関口剛史(法2・國學院栃木高)のタイムリーヒットで同点に追い

つき、そのまま延長へ。迎えた12回裏、ノーアウト満塁のチャンスに馬場康友(経営4・専大松戸高)のサヨナラヒットにより5-4で勝利し、専大は貴重な勝ち点を挙げた。

中山真吾主将(経営4・星陵高)は「残りの試合も全部勝って優勝を狙います」と力強く語った。(桃沢薫・商3)

[5月15日/ニュース専修15面]

「京王電鉄杯」2位 高さで他大学圧倒 男子バスケット



青木康平(商4・福岡大附属大濠高)のシュート



中川和之(経済2・豊浦高)のシュート

京王電鉄杯6大学バスケットボールフェスティバル(男子)が4月27日から30日までトヨタ府中スポーツセンターで行われ、専大は2位と健闘した。

新入生を加えた新チームでの調整を兼ねた今大会、専大は「高さ」で専大を圧倒した。センター陣を筆頭にフォワード陣

まで190センチを越える大型選手が出揃い、会場を驚かせた。

インサイドプレーを中心に、ガード陣の3Pシュートやランアンドガンといった従来の「走る」プレーの健在ぶりもアピール。「高さ」と「速さ」を兼ね備えた専大から今年は目を離せない。(宮川亮佑・文3)

[5月15日/ニュース専修15面]